

いま、クルマを取り巻くアフターマーケット業界において、最も期待されているエコロジー企業であるピボット。同社が世に送り出したエコ運転支援装置はさまざまなメディアに取り上げられ、環境問題意識の向上と共に注目を集めているのだ。

pivot

ECO技術の先駆者

楽しみながら実践できるECOなドライビングをバックアップし続けたい

二酸化炭素排出による気候の温暖化や、大気汚染による人体への影響などが世界規模でクローズアップされている。加えて今日では急激な原油高によるガソリン価格の高騰などもあり、クルマを取り巻く状況は刻一刻とクリーン&エコロジーな方向へとシフトしているのが感じられる。

そんな中いち早くエコというキーワードを注視して製品開発に取り組んできたパーツメーカーが、お馴染みのピボットである。

1986年、レーシングカー向け電子制御装置の開発で産声を上げた同社は、世界最小のターボタイマーやシフトランプ付きデジタルコンピューター等の意欲作を先鞭を早にリリ



ゆっくりに走ることががりがりな運転ではないことをみんなに知ってほしいです

1992年にはPIVOTブランドを立ち上げ、早くも現在へと繋がる布石を確立。その後もアメリカや東南アジアに正規ディーラーを設立するなど規模を拡大し、2005年にはエコ運転支援装置e-driveをもつてカーグッズ・オブ・ザ・イヤーを受賞するに至っている。

そんなピボットの名をECO技術の先駆者として決定付けたのが、他にもない栄えある賞を獲得したe-driveであった。それまで培ってきた電子機器開発にともなう膨大なノウハウを注ぎ込み、コンパクトなボディにユニークな機能を満載した同製品はどのようなように生まれてきたのか。

まずはここから、ピボットの創業者であり代表取締役である内川氏に話を伺っていきましょう。

「e-driveを開発するにあたり、まず最初に考えたのが、エコノミー運転を楽しく、積極的に進めてもらうことでした。これを実現するためには誰にでも分かりやすいエコな指標が必要だったんですね。それが走行距離に比例したガソリン代の算出や、運転度合いの採点機能といった独自のアイデアにつながっていったんです」

なるほど。これまでエコなドライビングというものがガマンや忍耐をイメージさせるものだったのに対して、あえてエンターテインメント性を加味させることで楽しみながらエコれるようにしてしまっただけだ。

それとですね、本格的に燃費の向上という命題に取りかかってみたら色々と本質が見えてきたんですよ。

例えば、単純に遅いスピードで走っていても燃費は向上しない……とか。あらゆるシチュエーションを想定して膨大なデータ計測をしてみたところ、エコ運転に必要な加速度は0.2G以内という結果が導き出されたんです」

0.2Gですか？ 単純に僕らが日常生活で受けている万有引力を1Gだとすれば、コンマ2はものすごく微妙な数値です。

「そうですね。このコンマ2Gという加速度はドライバーが判断できないばかりが、一般的な加速度(G)センサーでも認識できない微妙な動きなんです。おまけにこのセンサーでは前後と上下方向の動きを計測するのには無理があったわけです。そこで、当社はクルマの速度変化を高精度に演算することで、加速度を高精度に導き出すことに成功」

その技術開発があつてはじめて、e-driveが目の見えることになったわけですね。

「技術的なブレイクスルーも重要だったのですが、エコ運転そのもののイメージを向上させることにも主眼を置きました。遅く走ることがエコ運転じゃないんです。をキャッチコピーにして、前述したガソリン代の算出やカラオケ張りの採点機能を前面に押し出したわけです。あとは上手く時代の流れに合致できたことも大きいですね」

その結果e-driveは数多くのメディアに取り上げられ好調な販売を記録。カー・グッズ・オブ・ザ・イヤーの栄冠も手にしています。

「おかげさまで2006年にはアルバインのナビゲーションシステムに当社の開発いたしましたエコ運転支援装置の供給も決定しまして、ナビ組み込み型としてより多くのドライ



エコ運転支援装置として2005年8月に発売されたe-driveは、省燃費運転にエンターテインメント性を取り入れた新機軸アイテム。ガソリンの消費量をさまざまなシチュエーション別に表示するマルチ燃費計e-nopliは、2006年2月にリリースされた人気商品。



エコロジーが止まらない時代になった今、Pivotが未来のクルマ像を先取りします



自社製品を整然とディスプレイした本社社屋内は、オフィスビルとは思えないほど洗練された雰囲気漂わせる。また、レース活動を通じて技術力を培ってきたピボットの生い立ちを物語るように、玄関前にはフォーミュラカーが鎮座している。



ピボット
代表取締役
内川誠一氏



「マルチ燃費計と銘打ったenempiは、燃料消費量の把握に特化したデジタルメーターです。インジェクターからエンジンに噴出されるガソリン量を視覚化することで、ドライバー自身が燃料消費をつねに自覚することができるようになります。豊富なモード設定も用途に応じてチョイスできるので、楽しみながらエコなドライ

ビングスキル向上に役立てることもできるんですよ」
新製品のECOモードには実は副次的な効果もあって乗り心地も向上するんです
 と、これまでの商品はクルマの状態を視覚化することで、ドライバーにエコ運転を喚起するアイテムでした。しかし、今回新たに開発した3DRIVEでは従来とは全く異なったアプローチで新たなエコジョイドタイプを唱えているとか。
 「はい。このたびリリースする最新の急加速防止装置「3DRIVE」では、電子的に狙い通りのアクセルレスポンスを実現します。これまでも似たような製品は存在しましたが、クルマを速く走らせる方向にかかクトルが向いていなかったんで

す。そこで当社はノーマルとスポーツモードに加えて、エコという3つ目の選択肢を与えたのです」
 電子式スロットルを導入して、思い思いの走行フィールを実現するということですか？
 「その通り。従来、ハイスロと呼ばれていたものに対してのロースロです。ドライバーには違和感を感じさせないまま、電子制御ならではのスムーズなスロットルワークを実現します。結果的に燃費はかかりか、乗り心地まで向上しちゃうんですよ」
 と言っかけて、気になる3DRIVEの詳細は次ページにてご紹介。今春にはアッシングに特化した雷神シリーズ最高峰となる「MegarAIZON」のデリバリーも正式決定したピボット。クルマに欠かすことのない燃料消費から電圧コンディションまで、広い意味での独自エコシステムを構築しているのであります。

pivot

ピボット
長野県松本市岡田下岡田87-3
Tel : 0263-46-5901
http://pivotjp.com/

開発からデザイン、そして製造までを一手に集約することで効率化を図ったピボットの本社社屋。自社製品すべてを監視下におきコントロールすることで、常に高い品質と首尾一貫した企業理念を息づかせることに成功している。

PHOTO & TEXT : まるよほんぼ



アクセルレスポンスの電子制御で
エコ&スポーツモード走行!!



ピボット
価格：2万2890円
TEL：0263-46-5901
http://pivotjp.com/

pivot 3-DRIVE



12段階の
切り替えが可能

5段階のエコモードと7段階のスポーツモードから選べるアクセル制御は、ディスプレイ部のスイッチで瞬時に切替可能。愛車の性格をTPOや気分に合わせて自在に変化させることができるのだ。もちろん、ノーマル状態をチョイスすることもできる。



コンパクトな本体とディスプレイ部で構成される3-DRIVE。実際の装着時にはアクセル側のコネクタに車種別専用ハーネスを間に噛ませる仕組みだ。



これがエンジンルーム内でアクセル開度をコントロールしている電子式スロットル。このスロットル経路内にある弁を3-DRIVEが介入して制御する。

運転席の足元にあるアクセルペダルのコネクタから取り外し、3-DRIVEと接続させるための専用ハーネスを挿入された。

アクセル開度を自在に
コントロールすることで
狙い通りの加速と燃費を

ピボットという企業が根幹に持つアイデンティティなり熱き想いは、前ページまでの代表直々によるインタビューを読んでいただいで十二分に理解していただけたであろう。

そんなピボットが近未来を見据える企業理念を踏まえ、今春満を持してリリースするのが「エコ」をコンセプトに開発した新機軸のデジタルデバイス「3-DRIVE」である。

すでに多方面から注目を集めるこの「3-DRIVE」は、クルマの挙動をつかさどるスロットル制御を電子的に介入することで自在に制御することを実現したデバイスだ。ドライバーがペダルを踏み込むことによってコントロールするクルマの挙動に加速減速は、そのままダイレクトにクルマを制御するだけでなく、同時に燃料の消費量を左右している重要なマンマシ・インターフェース。本来必要とされない無闇やたら

Meker's Voice

METER

pivot

DRIVING GAUGE

今後ともドライビングの喜びと
環境保全の融合を追求します

当社が満を持してリリースする「3-DRIVE」は、従来よりエコ支援アイテムとしてリリースしてきた「e-drive」、「e-nenpi」の流れを汲む集大成的アイテムです。省燃費走行を狙ったスロットル制御は、特許出願済みのアイデアでこれまでの概念を打ち崩すもの。ドライバーにエコ運転を意識させることなく低燃費を実現しますよ。

販売企画課
上木重之氏

なアクセルワークは過剰な燃料供給となり、結果的にガソリンの無駄遣いにつながってしまうのだ。

そこでピボットの「3-DRIVE」は、機械式のアクセルペダルと電子制御される電子式スロットルの間に介入して任意のプログラミング下でクルマを制御。エコロジーモードでは急加速を抑えたスロットルワークを演出し、逆にスポーツモードではノーマル以上のポテンシャルを引き出すことに成功。あらゆるドライバーの嗜好をボタンひとつのセッティングでチョイスすることを実現しているのだ。

また、基本機能であるスロットル制御のモード選択だけでなく、デジタル機器ならではの付随機能も豊富に用意されているのもポイント。例えばアクセルの開度の状態を表示するアクセルモニターをはじめ、車体のキーをオフにしても以前のモードを忘れないモード記憶しかり、「3-DRIVE」ならではのエコシステムを日常のデバイスとして昇華して